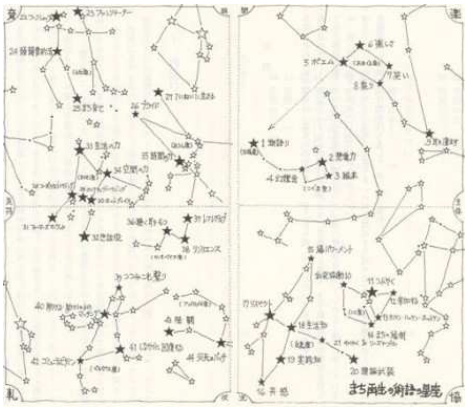
その本はそこに　読書案内 16　～その生涯を世の中への贈物として～

まち再生の術語術　延藤安弘　著　（岩波新書/2013.03.19）　❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖❖

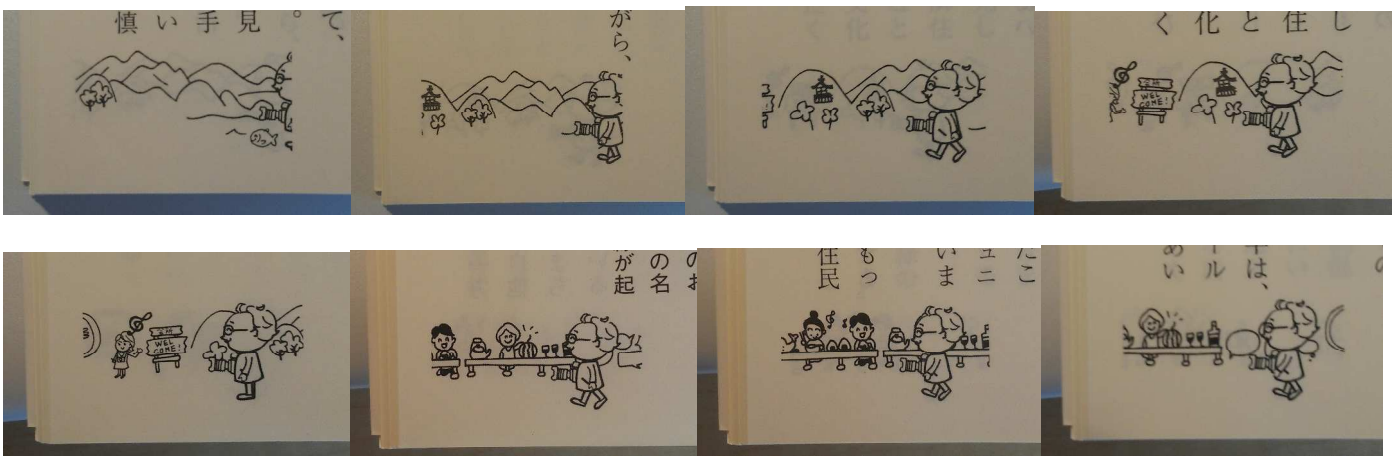
■延藤安弘先生（都市研究家・地域プランナー）は、2018.年 2 月 8 日、77 歳で急逝されました。先日（2018.05.12）、名古屋市内にて、偲ぶ会が行われました。延藤先生の意志を引き継ぐ方達が、構想「延藤安弘ライブラリー・絵本カフェ」への発展を展望しながら、延藤文庫基金を立ち上げています。

この本は、まち育ての助っ人として全国を駆け回る著者が、住民・行政・専門家・支援者のトラブルをドラマに変える現場で捕まえた、まち再生の思想と手法の術語（キーワード）集となっています。

キーワードは、「物語り」～「必死のパッチ」まで全４４語で、全体の配置や互いの呼応関係を見渡せるよう、番号順目次とは別に、星座図上に配置した目次が作られています。　▼まち再生の術語の星座



「物語り」にあえて“り”がついているのは、物語のように完結せずに、始まりや終わりがなく、続いていく意味合いを持たせていて、ナラティブ（物語的に）に語りあう場・状況づくりが、まち再生だとしています。確かに識字率の高くなかった、そう遠くない昔は、口承・口碑で、祖父母から孫曾孫へと語り伝えた歴史があり、今は書き物の過重、文字以外の資料・史料の歴史も当然あります。

「ワークショップ」項では、愛知県岡崎市の大規模複合公共施設りぶら（図書館・生涯学習）について、計 24 回の WS（H16-H20）。岡崎市に住んでいたこともあるのですが、知りませんでした。。。その場のコーディネーター役を預かっていた著者が提案した、お城側の縁側で、知らないうちに、自分の子供と遊んでいたのです！施設内の路地的な空間や、外部の縁側や水遊びのできる場所や川べりなどは WS を重ねた賜物で、入場者も多く、市民に愛される施設となっていると思います。

「コーポラティブハウジング」項では、ユーコート（1985 年 11 月竣工・入居）が出てきます。その他「空間の力」「時間の力」「格闘」などにおいて、建築保存や復興公営住宅の話が出てきます。「必死のパッチ」項は、トコトン粘り強く状況に挑戦する態度。あとがきには、厳しい寒さの中、タンポポが雪を割って咲き始める仙台にて（2013 年 2 月 12 日）、風景の幻燈・またつぶやきを生み・生命の花・まちに咲かせるでしょう、とあります。下の絵のように、本の左下は、パラパラ漫画になっていて、カメラを持った延藤先生が現れ、まちの人と出会い、自然や家々・縁側・路上のコタツ・猫・ミツバチなどと出会い、去っていきます。　自由貸出可（黒野晶大）